

親友のCIA局員は二重スパイ!? 殺し屋スコルピオの決断は?

クラシック・シネマ

『スコルピオ』

アラン・ドロン&パート・ランカスター、英仏を代表するスター共演の重量級スパイスリラー。渋いランカスターとクールなドロン、アメリカ→ヨーロッパを股に掛けるスケールの大きな物語、奥行感たっぷりの凝った構図の撮影によるアクションなど見どころいっぱい。

俺は帰ってきた! 愛する女と憎むべき仇がいる、この街に…

クラシック・シネマ

『追悼のメロディ』

フランシス・レイの印象的なテーマ曲が流れるオープニングはジャン＝ポール・ベルモンドの魅力爆発。ミステリー仕立ての現在と青春映画仕立ての過去が同時進行する物語は往年のフランス映画の洒落たムードが堪能出来ます。

マシンガン大量殺人事件。 サンフランシスコ市警の刑事集団、捜査開始!

クラシック・シネマ

『マシンガン・パニック 笑う警官』

スウェーデンの警察小説『マルティン・ベック』シリーズの一篇をサンフランシスコに翻案。派手なカーチェイスや銃撃戦はなく、普通の刑事たちの地道な捜査を点描。ウォルター・マッソーを初めとする出演陣の70年代調のリアルな演技は見もの。

懲役7年以上の重犯罪者専門の特捜班 “ザ・セブン・アップス”

クラシック・シネマ

『重犯罪特捜班 ザ・セブン・アップス』

傑作『フレンチ・コネクション』の主要スタッフ&キャストが再集結した番外編と言える一篇。見ものは中盤のカーアクション。正直言って、スピード感やチェイス中の危機の段取りは『フレコネ』以上の出来。ハードボイルドなエンディングも男っぽくて良し。

19世紀末のロンドン。 “象人間”と言われた異形の男の哀しい半生

クラシック・シネマ

『エレファント・マン』

先天的変型した頭蓋骨故に見世物にされたジョン・メリックの半生をモノクロ映像で描いた一篇。顔面メイクを施しながら、体と目で様々な感情を表現するジョン・ハートの名演(心からの叫びをあげるシーンは圧巻!)と物悲しいテーマ曲はいつまでも心に残ります。